



看護業務の効率化先進事例アワード 2023

適切な感染対策と 汚物処理業務の効率化

社会医療法人畿内会
岡波総合病院

優秀賞
業務改善部門

社会医療法人畿内会 岡波総合病院

病院理念

至誠：至誠とは何ごとにも真心を込めて行い努めます。

注意：注意とはすべて細心の注意をはらって仕事に励みます。

満足：満足とは自分はもちろんのこと相手に満足していただくよう努めます。



所在地 三重県伊賀市

病床数 335床 ※2023年12月1日現在

主に算定している入院基本料 急性期入院基本料 4

職員数 625名 ※2023年12月1日現在

うち看護職員数 285名

HP <https://www.okanami.com>

1 | 汚物処理室での作業に関して

- 尿器やポータブルトイレバケツなどの汚物処理業務は看護職員の時間や労力を要する
- 汚物処理洗浄時の周辺環境汚染や消毒が不十分であることは医療関連感染のリスクファクターとなる

2 | 汚物処理室で行う作業のイメージ

- 臭くて汚いというマイナスイメージが強い



2023年1月の新築移転を機に、汚物処理業務をハードとソフトの両側面から見直すことができないか

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- ① 汚物処理の労力の削減と時間の短縮を図る
- ② 汚物処理業務において医療関連感染が起こりにくい環境を作る
- ③ 汚物処理の作業は臭くて汚いというイメージを改革する

目標

- ① 汚物処理に要する時間を50%短縮させる
- ② 感染対策の視点で作業工程を見直し業務内容を統一する
- ③ 導入後、看護職に聞き取り調査を行い60%以上の満足を得る

方法

- ① マセレーターパルプ粉砕機（以下マセレーター※）を導入する
 - ・ 洗浄や消毒をなくす
 - ・ 汚物槽を撤廃する
- ② 感染対策の視点で作業工程を見直す
- ③ 汚物処理室の名称を変更（「CUR : Clean Up Room」へ）

※マセレーター：単回使用の紙製便尿器を排泄物ごと粉砕・処理する機器。

取り組みの流れ

問題点の洗い出しからマセレーター導入・評価まで

2022年1月

作業手順と 問題の洗い出し

- 洗浄および消毒の作業が不適切である
- 汚物処理に時間を要している
- 汚物処理室の作業は臭くて汚いが仕方がないと諦めている

2022年5月

マセレーター設置場所 と作業動線の確認

- マセレーター16台導入（同一法人内の介護老人保健施設を含む）
- 運用マニュアルの作成

2022年12月

研修会の実施

- 同一内容で複数回実施
- 翌月、新築移転に伴いマセレーター稼働開始

2023年5月

マセレーター導入 における評価

- ラウンドによる使用状況の確認とフィードバック
- 困りごとの共有と解決策の検討
- 看護職員に対する聞き取り調査

1

作業手順と問題の洗い出し

- 使用後容器の洗浄および消毒の作業が不適切である
- 汚物処理作業に必要なスペースの確保がされていない

洗浄ボトルが消毒液に確実に浸漬できていない



汚物処理時に汚物槽からの跳ね返りがある

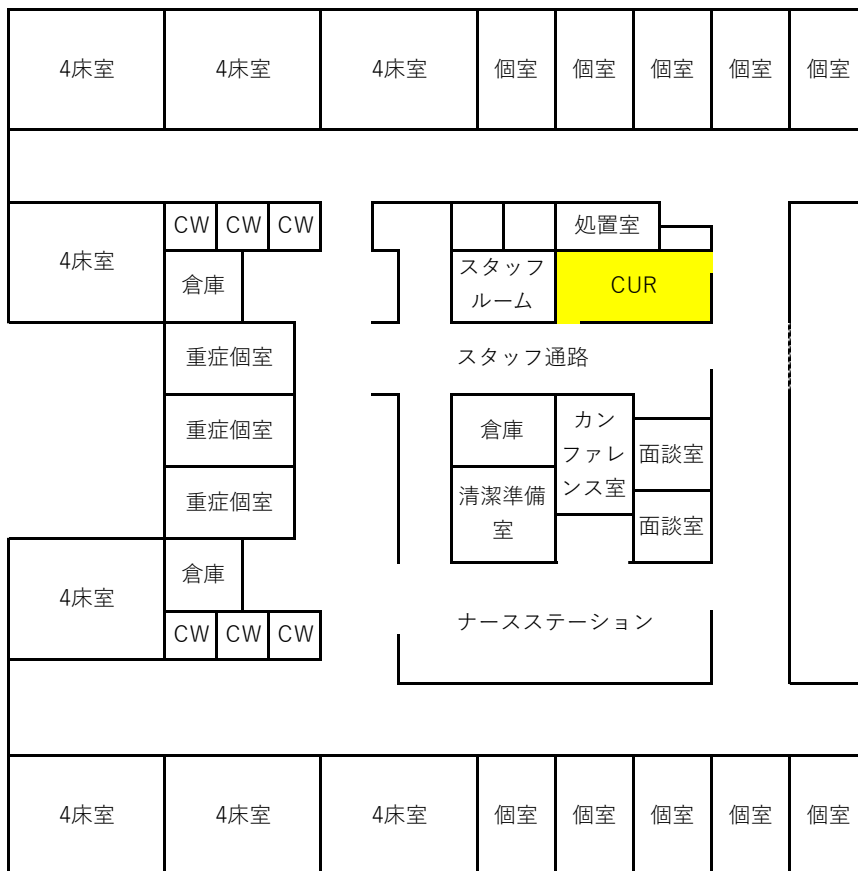


取り組み内容

2

処理スペースの確保と動線を考慮した配置

- 汚物処理室は病棟ごとに設置
- 汚染を処理する**作業**をするためのスペース
- 汚物処理に必要な物品を**配置**するスペース



汚物処理室 (CUR) 内部の様子



広さ：16m²

3 マセレーター16台導入

全病棟、ER、集中治療室、外来、レントゲン室、手術室、介護老人保健施設



マセレーター

汚物処理容器を単回使用の再生パルプへ変更

＜選定理由＞

- 災害時においても供給が安定（国内生産）
- 白色で排液の観察がしやすい
- 容器のバリエーションが豊富

単回使用の再生パルプ汚物処理容器の例

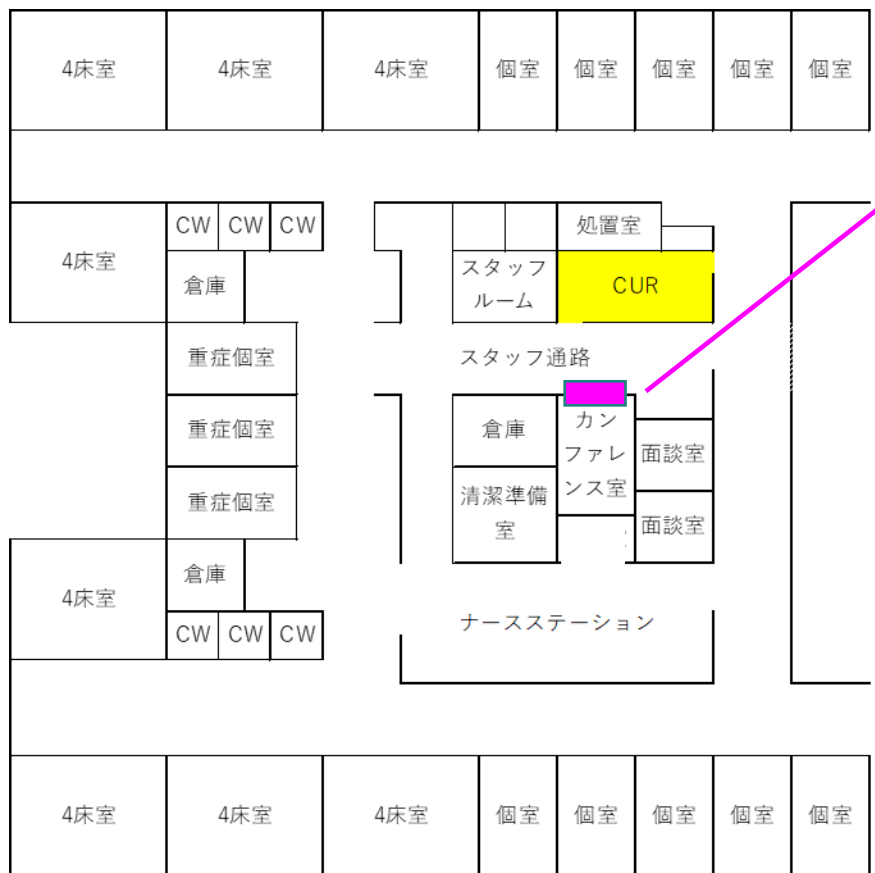
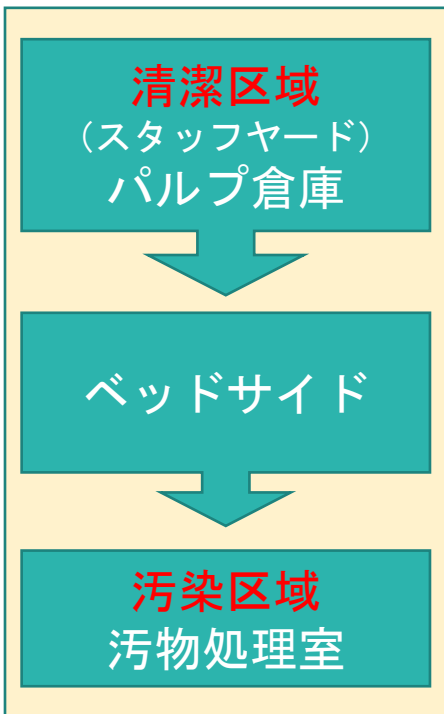


取り組み内容

4

作業動線を考慮したパルプの配置

スタッフヤードから未使用のパルプを持参し病室へ向かう動線を考慮して配置



取り組み内容

5

汚物処理室内での作業動線の統一化



1 汚物処理に要する時間短縮

尿器使用患者3名、膀胱留置カテーテル挿入患者5名、ポータブルトイレ利用者3名が入院している病棟で汚物処理に必要な時間を比較

導入前	導入後	86%削減
190分/日	26分/日	

2 排泄ケア用品の処理労力の削減

【マセレーター導入前後の作業工程と手順の比較】

導入前	導入後
① 使用後容器を用手洗淨	① フットペダルで蓋を開き、使用後パルプをマセレーターに入れる。その後は自動処理
② 浸漬消毒	
③ 乾燥して保管場所に収納	

3 | 効果的な感染対策が可能になった

- 微生物の飛散を受ける機会が減少した
- 洗浄・消毒・乾燥の工程が不要になった
- 動線が一方向になったことで、清潔と不潔が交差しなくなった
- 周辺環境に接触することなく汚物処理できるようになった

4 | すべての看護職員が汚物処理の作業が軽減したと回答 (2023年5月の看護職を対象とした聞き取り調査結果、n=27)

【聞き取り調査の自由記載欄より】

- 汚物処理作業時間が短縮されベッドサイドケアに費やす時間が増えた
- マセレーターがない汚物処理作業は考えられないほど楽になった
- 汚物処理室のにおいが気にならなくなった
- 尿器が消毒中ですぐに届かないなど、患者からの不満がなくなった

5 汚物処理に関する業務の標準化につながった

- 汚物処理に関するマニュアルの平均遵守率 63.5%
- 汚物処理マニュアル遵守状況の確認と各部署へのフィードバック

病棟ラウンドを実施し9項目の
マニュアル遵守状況を確認

使用状況を写真で提示し、改善
すべき内容を提示

評価内容をフィードバック用紙
にまとめ部署長に手交

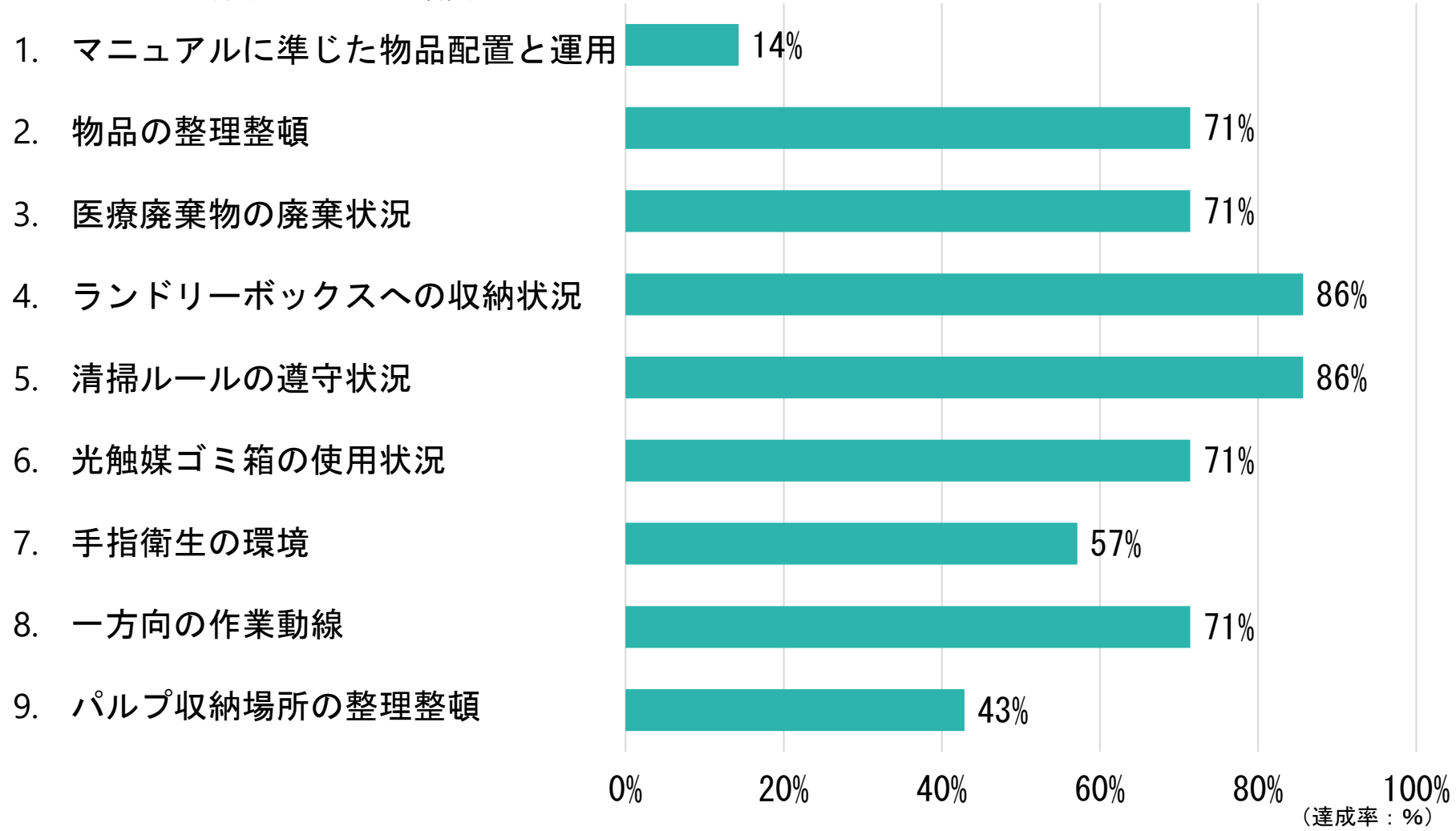
師長会で施設全体の順守率伝達

【ラウンドチェック9項目】

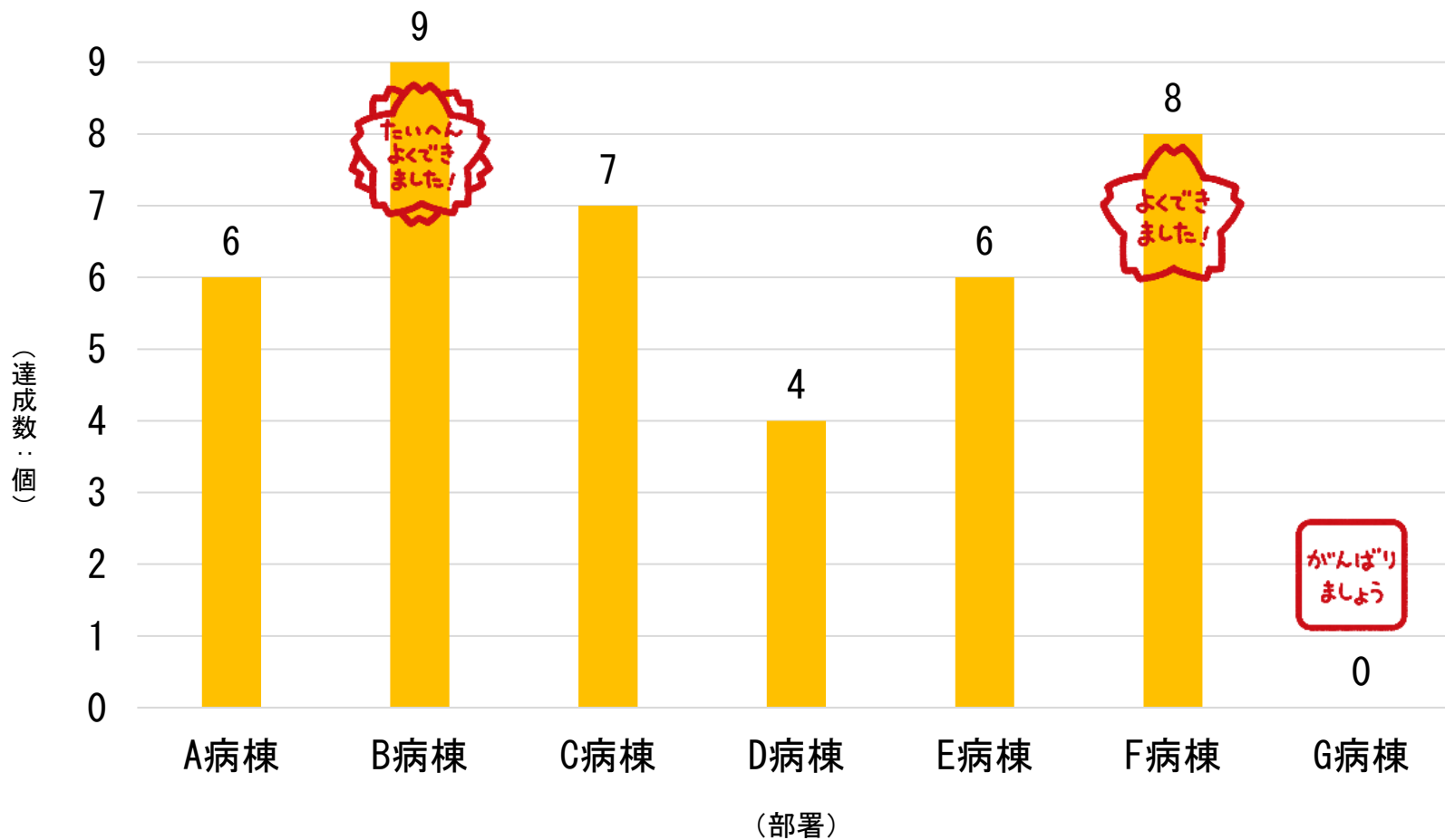
1. マニュアルに準じた物品配置と運用
2. 物品の整理整頓
3. 医療廃棄物の廃棄状況
4. ランドリーボックスへの収納状況
5. 清掃ルールの遵守状況
6. 光触媒ゴミ箱の使用状況
7. 手指衛生の環境
8. 一方向の作業動線
9. パルプ収納場所の整理整頓

5-1 | 汚物処理に関するマニュアルの平均遵守率 63.5%

(ラウンドチェック9項目)



5-2 | 汚物処理マニュアル遵守状況の確認と各部署へのフィードバック



取り組み導入のポイント

1

汚物処理業務の問題点を現場とともに分析し、目指す方向性について管理者の理解を得る

- 汚物処理に関する問題点を丁寧に分析する
- 汚物処理作業の動線を考慮しスペースや物品の配置を検討する
- 早期から新築移転に伴う会議に参画できるよう環境を整える

2

マセレーターを導入しただけで満足しない

- 運用状況の定期的な監視とフィードバック
- 導入後の使用状況やトラブル・困りごとを解決するフォローアップ体制を継続する
 - ・ 「蓋が閉まらない」「パルプが未処理のまま残っている」など
- マセレーターを使用するすべての人に教育が必要
 - ・ 看護師と看護助手を対象に複数回同一内容で開催（20分/回 5セット）
 - ・ 導入時：「汚物処理室の使用方法和マセレーターの取り扱いについて」
 - ・ 8か月後：「マセレーター稼働状況と起こりやすいトラブルと対処方法」

- 1 | 汚物処理に関する評価や課題を共有し、さらに円滑で効率的な運用を目指す
 - マセレーターのトラブル内容とその対応を周知徹底
 - パルプの使用状況と採用種類の見直し
- 2 | 効率化された時間を直接ケアを提供する時間や看護の質を高める話し合いの時間に活用する
 - 効率化された時間の活用に関する検討と評価